

# 今週の T2 経済レポート



2019年5月17日号

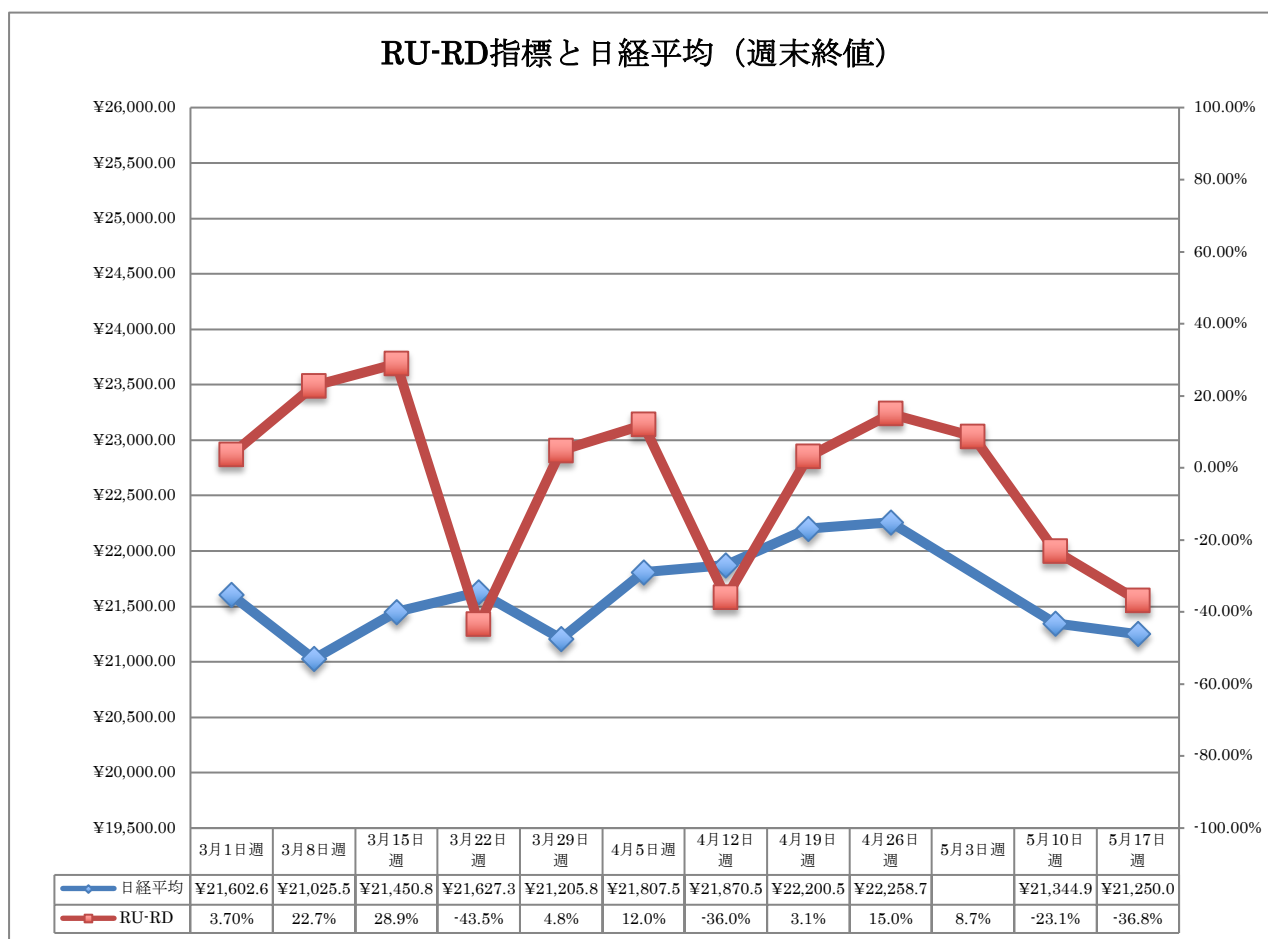
## ■■■ 市場ウオッチ ■■■

### <先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は軟調な展開が継続する週となりそうです。今週(5/13~5/17)の相場を占う『RU-RD指標』は5月3日週が-36.8%(参考)と2週連続マイナス圏に陥っていることから、軟調な展開が継続する可能性が高そうです。さらに来週(5/20~5/24)の相場を占う5月10日週が-32.6%(参考)と3週連続マイナス圏に陥っていることから、軟調な展開がさらに継続する可能性が高そうです。3週連続マイナス圏は1ヶ月間日経平均が下落し続けた昨年12月10日週以来。以前から、『市場があまりにもこの10連休中に急落調整を警戒し過ぎたことで、投機筋の外国人は逆に、この10連休の時期を外して、ゴールデンウィーク明けに急落調整を仕掛けてくるのかもしれませんが。現在、FRBが金利引き上げを止めたことで、長短金利差の縮小が止まり、更に拡大に向かっていることで一旦、急落調整の時期を迎えることを示唆しています。また、大型IPOとなるUberの上場もNY市場の波乱に影響しているかもしれません。』と指摘。5月5日、トランプ米大統領が2000億ドル(約22兆円)の中国製品に対する制裁関税を10日に10%から25%に引き上げるとツイッターで表明。残りの輸入品にも25%の関税を速やかに課す意向(13日に詳細発表)で、相場は予告通りの急落となりました。また、先週、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率が、直近1月18日週+18.6%→1月25日週+17.1%→2月1日週+22.9%→2月8日週+8.6%→2月15日週+15.7%→2月22日週+24.3%→3月1日週+41.4%→3月8日週+11.4%→3月15日週+7.1%→3月22日週+11.4%→3月29日週+5.7%→4月5日週+10.0%→4月12日週+25.7%→4月19日週+22.9%→4月26日週+18.6%→5月3日週0%(参考)とプラス圏は15週連続で終了したかたちです。しばらくは調整局面入りするシグナルが表れたことで、今後は同指標がどこでボトムを打ち、また再度、プラス圏に入るのがいつになるかに移ります。』と指摘しましたが、5月10日週-35.7%と一気にマイナス圏へ落ち込んでいます。同指標がプラス転換するまでは相場の本格上昇は遠のいたかたちです。

今週は、経済指標では、国内は13日に3月景気動向指数、14日4月景気ウォッチャー調査、15

日に4月工作機械受注、海外は、15日に中国4月鉱工業生産、中国4月小売売上高、米4月小売売上高、ユーロ圏1-3月期四半期域内総生産(GDP、改定値)、16日に米4月住宅着工件数、ユーロ圏4月消費者物価指数などがそれぞれ予定されています。15日発表の4月小売売上高は前月比+0.3%と、3月の+1.6%から伸びが鈍化する見通し。予想外に強含んだ3月の反動とみられています。また、16日発表の米4月住宅着工件数は米連邦準備理事会(FRB)が利上げ凍結方針を示すなか、住宅ローン金利は低下しており住宅関連指標が回復するかに要注目です。」とコメントしました。



4月26日週	5月3日週	5月10日週	5月17日週
¥22,258.73		¥21,344.92	¥21,250.09
15.0%	8.7%	-23.10%	-36.8%

先週の日経平均は、高値 21398 円(5 月 17 日)・安値 20751 円(5 月 14 日)と推移、前の週と異なり、前半安・後半高の強いかたち。先週は、米国が中国からの全輸入品に制裁関税を課す「第 4 弾」の詳細案を 13 日公表すると発表する一方、中国政府も米国製品 600 億ドル相当への関税引き上げを 6 月 1 日から実施すると表明したことで米中が高関税を発動し合う対立激化懸念を嫌気して 14 日に 2016 年 3-4 月以来、3 年 1 カ月ぶりとなる 7 日続落を記録し下値目標値を下回りましたが、トランプ大統領が中国の習近平国家主席と会談する意向を示し、貿易摩擦激化への警戒感が多少和後退したことで、週間ベースで-94 円安と 2 週連続安でしたが小幅安にとどまっています(先週予告していた上値メド 21777 円~22212 円(+2%かい離)//下値メド 21632 円~21199 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、5 月 9 日に 21500 円大台割れで下落スタート、14 日に 21000 円大台割れでカウントダウンの下落局面入りに 5 日間、従って、19 日(日曜日のため猶予で 20 日)までに 20500 円割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りました。逆に、21500 円大台替えで仕切り直しが入ります。中期の大台替えでは、3 月 30 日までに 22000 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。23000 円大台替えで仕切り直し、逆に、20000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、5 月に 21000 円大台割れで逆に下落スタートとなりました。20000 円大台割れでカウントダウンの下落局面、逆に、22000 円大台替えで仕切り直しが入ります。これで短期↓、中期→、長期↓となり、目先はより弱含みのかたちに変化してしまいました。

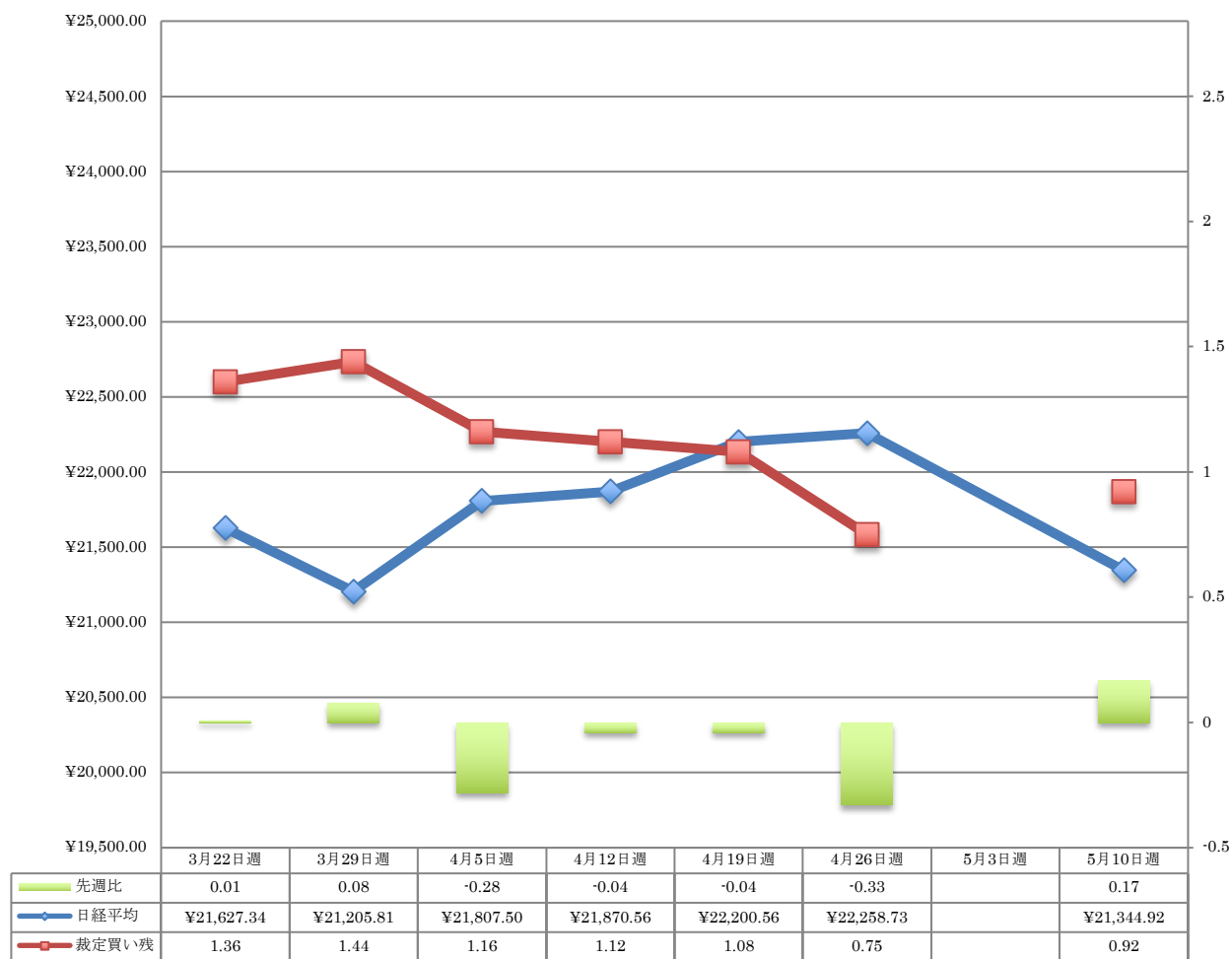
日経平均を左右する NY ダウは、高値 25957 ドル(5 月 16 日)・安値 25222 ドル(5 月 13 日)と推移、4 週間振りに前半安・後半高の強いかたち。先週は、中国が米国に対する報復関税を発表し、米国も対中関税第 4 弾の詳細案を公表したことで米中貿易摩擦激化への懸念で下値目標値を達成しましたが、米 5 月 ミシガン大学消費者信頼感指数速報値が 15 年ぶりの高水準やトランプ大統領が自動車の関税上乘せについて「180 日間、先送りする」との声明を正式に発表したことで反発、週間ベースでは-247 ドル安まで縮小しましたが 4 週連続安で終了しています(先週予告していた上値メド 26157 ドル~26680 ドル(+2%かい離)//下値メド 25720 ドル~25205 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、短期の大台替えで、5 月 13 日までに 25000 ドル大台割れでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが、時間切れ。26000 ドル大台替えで仕切り直し、逆に、24500 ドル大台割れで下落スタートとなります。中期の方向を示す月ベースでは、2 月 22 日に 26000 ドル大台替えで仕切り直しが入りました。27000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、25000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、2 月に 26000 ドル大台替えで仕切り直しが入りました。27000 ドル大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、25000 ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期↑となり、強含みながらも乱高下しやすいかたちになりました。

一方、為替は、ドル・円が 110.17 円～109.00 円(先週予告していた上値メド 110.42 円～111.52 円(+1%かい離)//下値メド 109.47 円～108.37 円(-1%かい離))と推移、下値目標値を達成して実質 5 週連続の円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.1265～1.1152(先週予告していた上値メド 1.1285～1.1397(+1%かい離)//下値メド 1.1145～1.1033(-1%かい離))と推移し、上値・下値両目標値を達成しない小動きとなりましたが、実質 3 週連続のドル安・ユーロ高。また、ユーロ円は、123.48 円～122.04 円(先週予告していた上値メド 123.98 円～125.21 円(+1%かい離)//下値メド 122.46 円～121.23 円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し 5 週連続の円高・ユーロ安。前の週の円>ユーロ>ドルが3週連続で継続したかたちです。ただ、円高修正は5週連続継続しています。米国が対中関税第4弾の詳細案を公表し米中貿易摩擦激化への懸念が強まったことでリスク回避的なドル売り・円買いが強まったかたちです。

## <裁定買い残>

昨年 10 月 8 日週以来となる 1.4 兆円台を回復した後、実質 6 週間振りに増加しています。昨年 12 月末の 5000 億円台からみると約 3 倍近い水準まで回復した後、振り出しに戻ったかたちで 2 番底のような動きと思われます。過去の推移を振り返ると、昨年 9 月 14 日週～28 日週の 3 週間合計で +1.12 兆円の急増となり、5 月 21 日週以来、約 4 ヶ月振りに 2 兆 5000 億円台を回復して 10 月 2 日の日経平均の年初来高値更新を演出しました。その後、昨年 10 月 1 日週～10 月 26 日週の 4 週連続減少、4 週間合計で約 1.5 兆円急減、この 4 週間のうち 1 週間は 5000 億円の急減で昨年 2 月 5 日週以来。やはり昨年 10 月からの暴落は「VIX ショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

### 裁定買い残と先週比



4月19日週	4月26日週	5月3日週	5月10日週
¥22,200.56	¥22,258.73		¥21,344.92
1.08	0.75		0.92
-0.04	-0.33		0.17

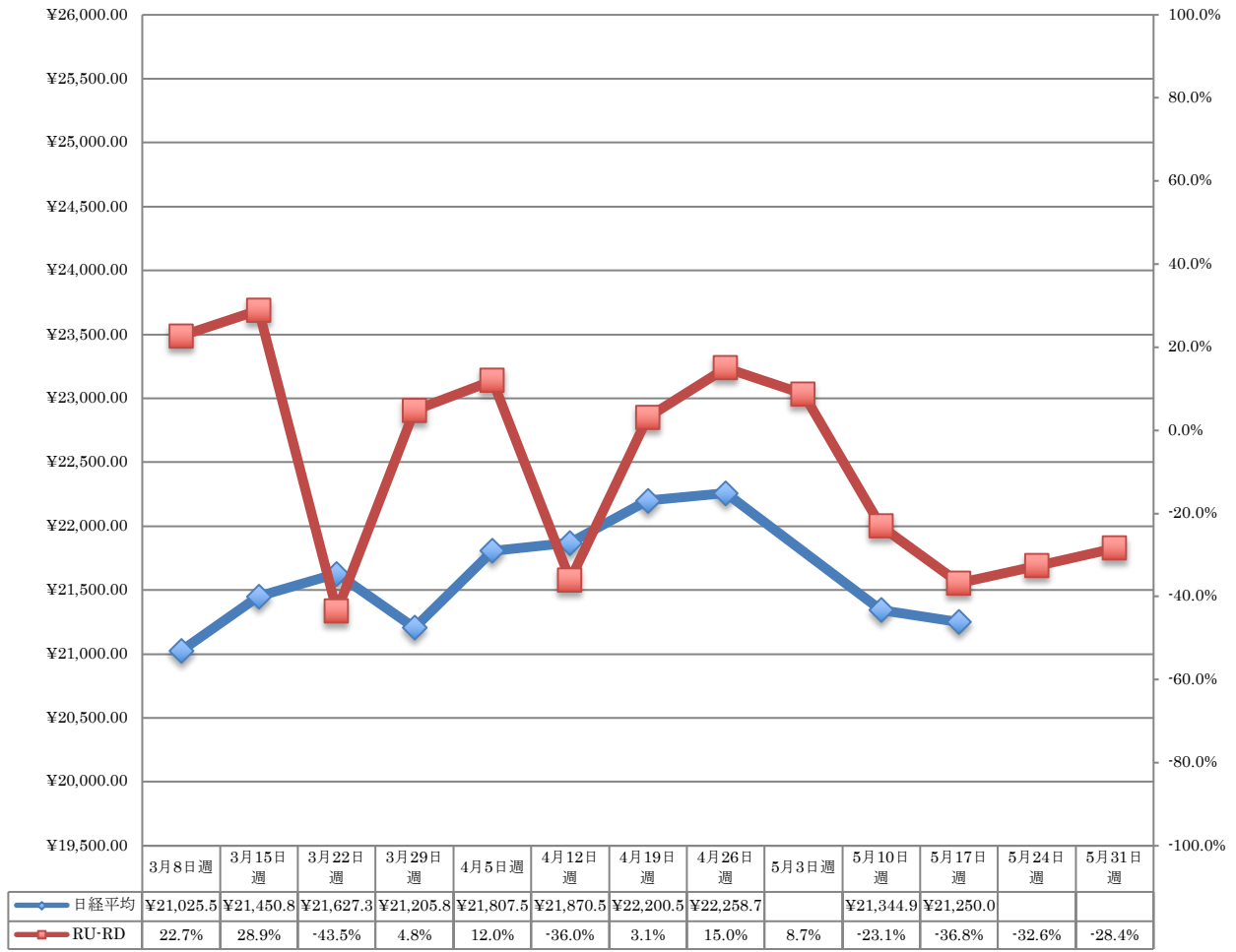
単位:兆円

## <今週のマーケットの見通し>

今週は軟調な展開が継続する週となりそうです。今週(5/20~5/24)の相場を占う『RU-RD 指標』は5月10日週が-32.6%(参考)と3週連続マイナス圏に陥っていることから、軟調な展開が継続する可能性が高そうです。さらに来週(5/27~5/31)の相場を占う5月17日週が-28.4%と4週連続マイナス圏に陥っていることから、軟調な展開がさらに継続する可能性が高そうです。4週連続マイナス圏は27年振りの高値時の10月1日週~22日週の4週連続以来。以前から、『市場があまりにもこの10連休中に急落調整を警戒し過ぎたことで、投機筋の外国人は逆に、この10連休の時期を外して、ゴールデンウィーク明けに急落調整を仕掛けてくるのかもしれませんが。現在、FRBが金利引き上げを止めたことで、長短金利差の縮小が止まり、更に拡大に向かっていることで一旦、急落調整の時期を迎えることを示唆しています。また、大型IPOとなるウーバーの上場もNY市場の波乱に影響しているかもしれません。』と指摘。5月5日、トランプ米大統領が2000億ドル(約22兆円)の中国製品に対する制裁関税を10日に10%から25%に引き上げるとツイッターで表明。残りの輸入品にも25%の関税を速やかに課す意向(13日に詳細発表)で、相場は予告通りの急落となりました。また、先々週、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」-「売り(レーティング3と4)」銘柄比率が、直近1月18日週+18.6%→1月25日週+17.1%→2月1日週+22.9%→2月8日週+8.6%→2月15日週+15.7%→2月22日週+24.3%→3月1日週+41.4%→3月8日週+11.4%→3月15日週+7.1%→3月22日週+11.4%→3月29日週+5.7%→4月5日週+10.0%→4月12日週+25.7%→4月19日週+22.9%→4月26日週+18.6%→5月3日週0%(参考)とプラス圏は15週連続で終了したかたちです。しばらくは調整局面入りするシグナルが表れたことで、今後は同指標がどこでボトムを打ち、また再度、プラス圏に入るのがいつになるかに移ります。』と指摘しましたが、5月10日週-35.7%→5月17日週-61.4%と一気に下限ゾーンまで落ち込んでいます。下限ゾーン入りは昨年12月31日週以来。従って、同指標がプラス転換するまでは相場の本格上昇は遠のいたかたちです。

今週は、経済指標では、国内は20日に1-3月期GDP、21日に4月訪日外客数、22日3月機械受注、24日に4月全国消費者物価指数、海外は、21日にOECD世界経済見通し公表が予定されています。一方、イベントでは、20日米パウエルFRB議長講演、22日に4月30日・5月1日のFOMC議事録公表、23日に欧州議会選挙(~26日まで)のほか、25日にトランプ米大統領来日(~28日まで)が予定されています。22日の4月30日-5月1日開催の連邦公開市場委員会(FOMC)の議事要旨公表では景気認識などで強気な意見が多く出ている場合、利下げ観測は後退するとみられます。

### RU-RD指標と日経平均（週末終値）



5月10日週	5月17日週	5月24日週	5月31日週
¥21,344.92	¥21,250.09		
-23.10%	-36.80%	-32.60%	-28.40%

## ■■■ 今週の各指標の上値・下値メド ■■■

<日経平均>

上値メド 21040 円～21460 円 (+2%かい離)

下値メド 20560 円～20148 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メド 25731 ドル～26245 ドル (+2%かい離)

下値メド 24997 ドル～24497 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メド 109.49 円～110.58 円 (+1%かい離)

下値メド 108.37 円～107.28 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メド 1.1268～1.1380 (+1%かい離)

下値メド 1.1158～1.1046 (-1%かい離)

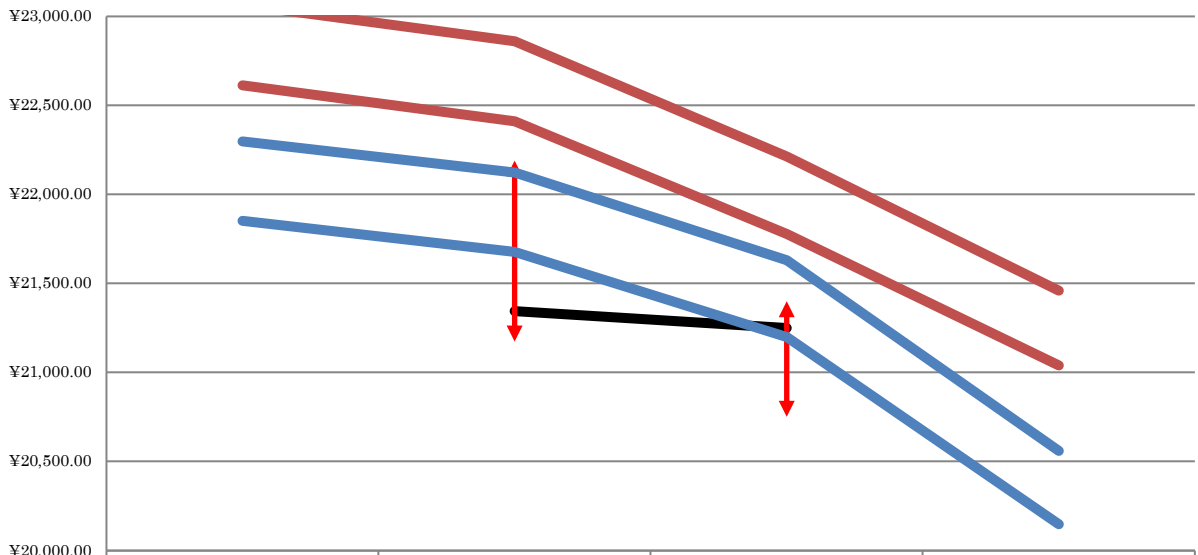
<ユーロ円>

上値メド 122.74 円～123.96 円 (+1%かい離)

下値メド 121.39 円～120.17 円 (-1%かい離)

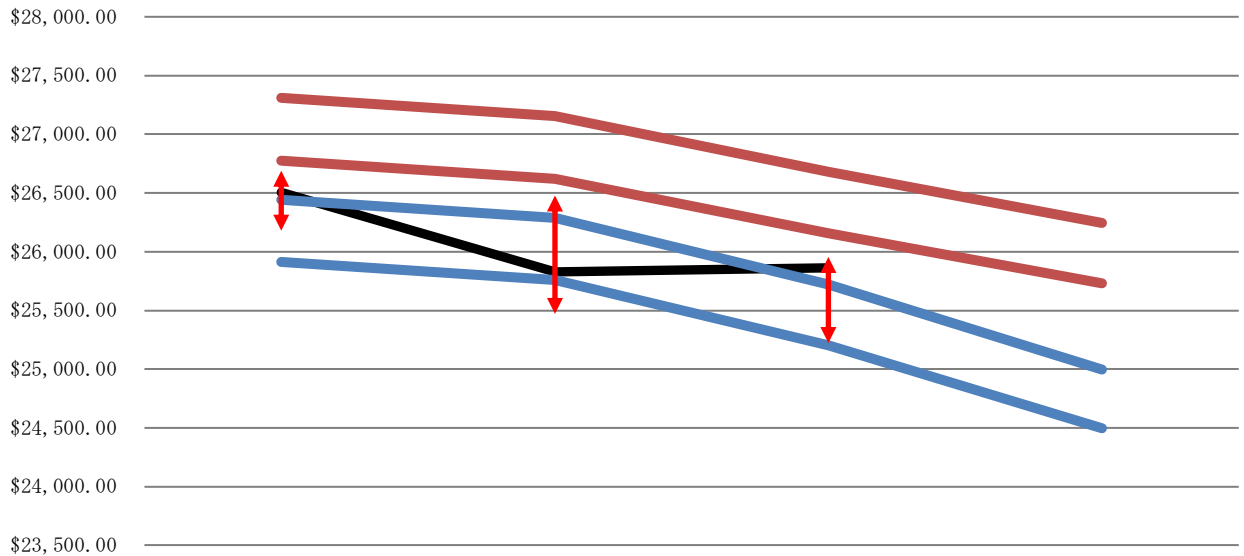


### 日経平均



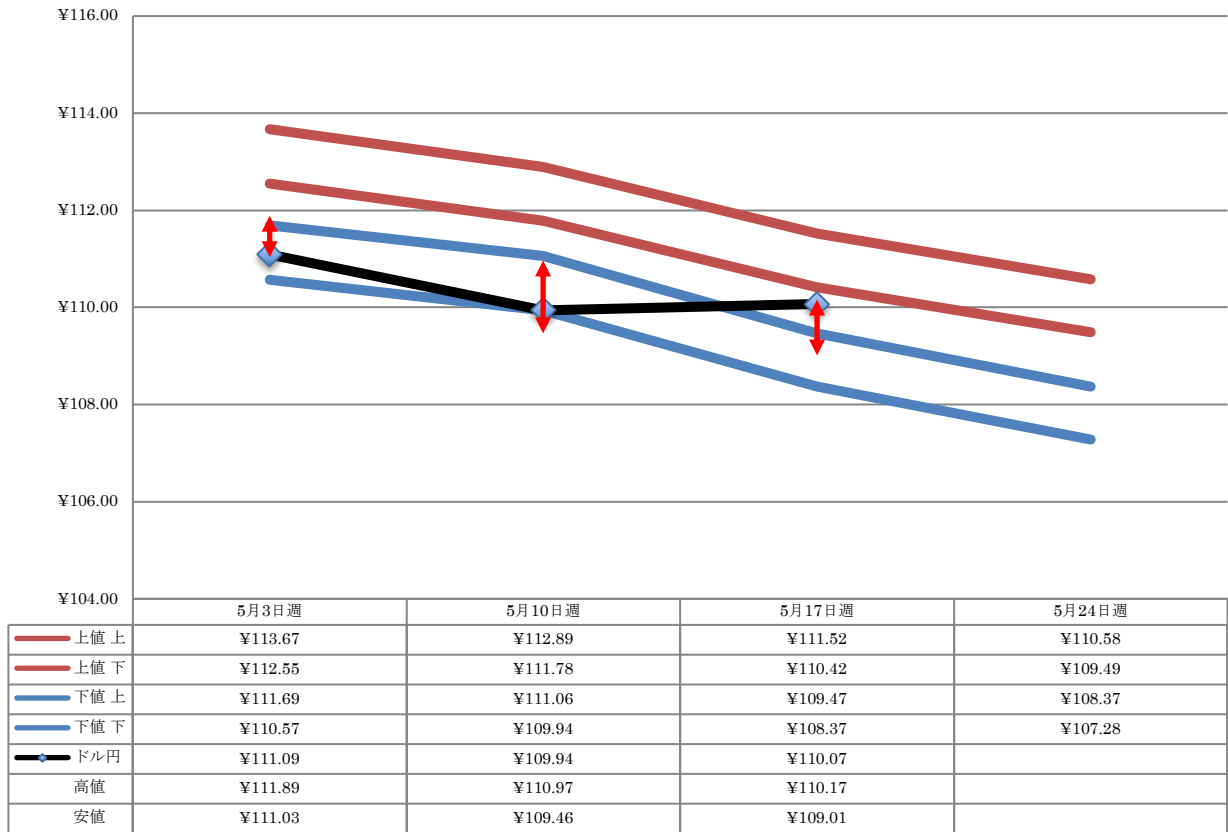
	5月3日週	5月10日週	5月17日週	5月24日週
— 日経平均		¥21,344.92	¥21,250.09	
— 高値		¥22,190.49	¥21,398.85	
— 安値		¥21,175.33	¥20,751.45	
— 上値 上	¥23,065	¥22,859	¥22,212	¥21,460
— 上値 下	¥22,613	¥22,411	¥21,777	¥21,040
— 下値 上	¥22,298	¥22,122	¥21,632	¥20,560
— 下値 下	¥21,852	¥21,679	¥21,199	¥20,148

### NYダウ



	5月3日週	5月10日週	5月17日週	5月24日週
— NYダウ	\$26,504.95	\$25,828.36	\$25,862.68	
— 上値 上	27310	27155	26680	26245
— 上値 下	26775	26623	26157	25731
— 下値 上	26442	26288	25720	24997
— 下値 下	25913	25762	25205	24497
— 高値	\$26,689.39	\$26,476.27	\$25,957.63	
— 安値	\$26,180.36	\$25,469.86	\$25,222.51	

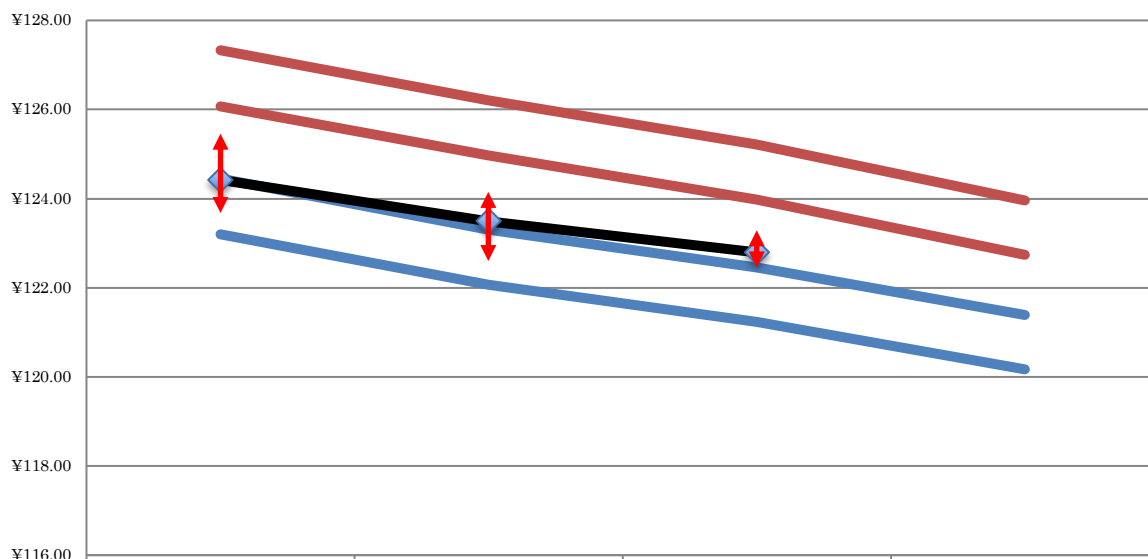
## ドル円



## ドルユーロ



## ユーロ円

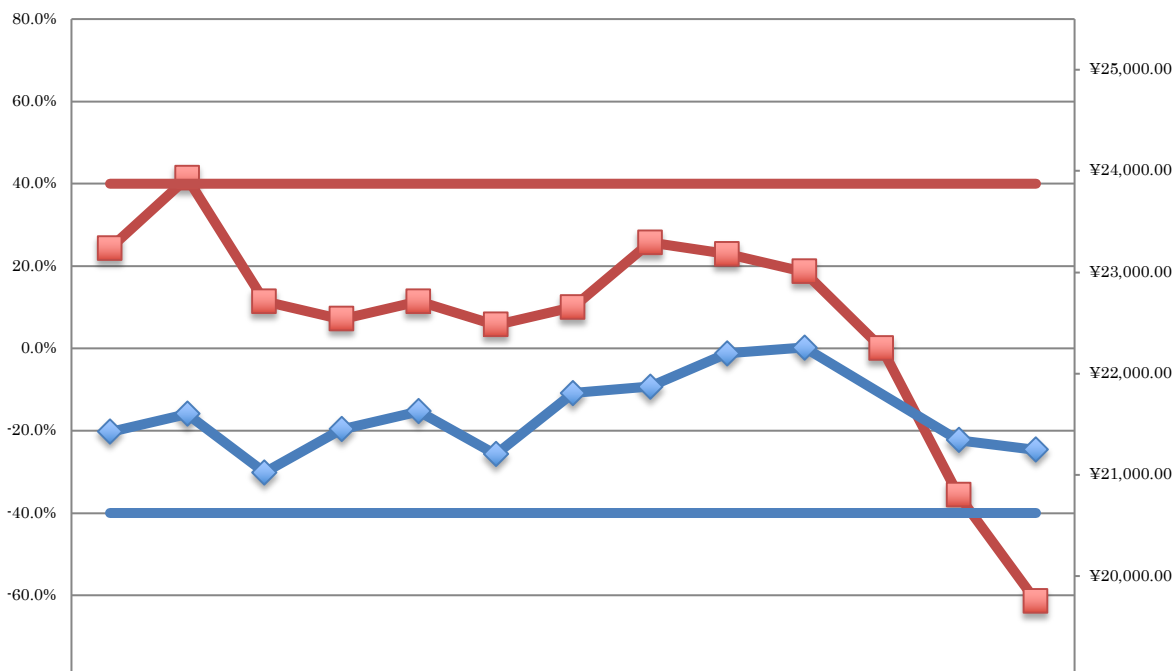


	5月3日週	5月10日週	5月17日週	5月24日週
上値 上	¥127.33	¥126.21	¥125.21	¥123.96
上値 下	¥126.07	¥124.97	¥123.98	¥122.74
下値 上	¥124.45	¥123.31	¥122.46	¥121.39
下値 下	¥123.20	¥122.07	¥121.23	¥120.17
ドルユーロ	¥124.42	¥123.50	¥122.79	
高値	¥125.46	¥124.15	¥123.30	
安値	¥123.68	¥122.60	¥122.46	

## ■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。直近まで 15 週連続プラス圏をキープしていましたが、16 週目で途切れたかたちです。直近 5 月 17 日週-61.4%と下限ゾーン入りは昨年 12 月 31 日週以来。以前から『今後は同指標がプラス圏を維持できるかどうかに移行します。プラス圏を割り込むと今年 1 月以降の反発局面が一旦、終了することを示唆し、調整局面が長引く可能性があるためです。』と指摘してきましたが、それが表面化する時間帯を迎えたようです。ただ、いずれ +40%の上限ゾーンを目指すことから、この調整局面は買いチャンスであることに変わりありません。前回、同指標が上限ゾーンを達成したのが昨年 10 月 1 日週+42.9%でこの時は日経平均が昨年 10 月 2 日に 27 年振り高値を更新しましたが、同指標は上限ゾーンを 1 週で終了、その後、昨年 10 月～12 月の大幅下落へ発展しました。

日経平均とT2レーティング比率



	2月22日 週	3月1日週	3月8日週	3月15日 週	3月22日 週	3月29日 週	4月5日週	4月12日 週	4月19日 週	4月26日 週	5月3日週	5月10日 週	5月17日 週
■ 銘柄比率	24.3%	41.4%	11.4%	7.1%	11.4%	5.7%	10.0%	25.7%	22.9%	18.6%	0%	-35.7%	-61.4%
— 上限	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%	40%
— 下限	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%	-40%
◆ 日経平均	¥21,425.5	¥21,602.6	¥21,025.5	¥21,450.8	¥21,627.3	¥21,205.8	¥21,807.5	¥21,870.5	¥22,200.5	¥22,258.7		¥21,344.9	¥21,250.0

□発行元:塚澤.com 運営事務局

□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週の T2経済レポート」は、

株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。

これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。

提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。